

他力本願

「他力本願」というと、「もっぱら他人の力をあてにする」と辞書にもあるような意味で使われます。しかしこれは俗語としての意味で、仏教で言う「他力本願」は、まったく別のことです。

東日本大震災の後、しばらくして関東で開かれた法座で一人の女性がこんなことを話してくださいました。

「震災の 2・3 日後、被災地では水や食料が不足しているとテレビで見て、心配になってコンビニへ買い物に出かけたのです。お店は、飲み物や食べ物を買われる方で混みあっていました。レジかごいっぱい品物を入れて大勢が並んでいたのですが、その中に小学1年生ぐらいの男の子が、お菓子を一つ持って並んでいました。レジの番になるとその子は、レジの横に置かれた被災地救援の募金箱を見て、少し考えていましたが、握っていたおこづかいを箱に入れて、持っていたお菓子を棚に返してお店を出ていったのです。

その時、血走った眼をして並んでいたおとなが皆、ハッとした顔になり、私は急に恥ずかしくなりました。」

被災地で困っている人より自分の安心を優先してしまう心を、私たちは持っています。

でも、先のお話しの小学生のように、私たちのその姿を知らせて教えてくれることがあります。私たちは自分の偏りや身勝手さに自分では本当に気づけません。他から教えられ指摘されて気づくのです。それを「他力」と言います。

そして自分を優先して何が悪いと開き直るのでなく、その自分に気づいて恥ずかしくなる心も持っています。他を蹴落としてでも自分を優先しようと争い合ってきた人間の愚かさを悲しみ深く問いかけ、目を覚ませと願いかけるものがあるから、ハッとして恥ずかしくなるのです。その願いを「本願」と言います

岐阜高山教区不遠寺住職 よつじ あきら 四衢 亮

大谷祖廟の Instagram をご存知ですか？

フォロー、拡散、また「#大谷祖廟花文字 #大谷祖廟」をつけて投稿してください！

お問い合わせ：大谷祖廟事務所 京都市東山区円山町477 TEL 075-561-0777



@OTANISOBYO